

「岩手のことばを語る会」あゆみ

平成26年7月作成

No	年月日			回数	会場		ことば
	年	月	日				
	10 (98年)	9	15		花巻市	ホテル千秋閣	【故成田廣邦氏(9月11日逝去)の法事の席で、ことばの教室旧担任の会を設立の動きがあった】
1	11	8	8	第1回	花巻市	ホテル千秋閣	<ul style="list-style-type: none"> ・成田さんの一周忌法要(花巻温泉ホテル千秋閣)を機に「いわてのことばをかたる会」を設立【参加者40名・昭和53年の全難言岩手大会時の会員を主とした】 ・次回から、県内持ち回りで開催とする【99年8月8日から「くやくや会」とも称した。発音に関連した会として、名称をひらがな書きとした】
2	12 (2000年)	8	19	第2回	大船渡市	碁石海岸・海楽荘	<ul style="list-style-type: none"> ・幹事に佐々木仁也、近藤均先生 ・市内の史跡、海岸の名勝や椿館などを散策(参加者21名)
3	13	8	25	第3回	金ヶ崎町	金ヶ崎温泉東館	<ul style="list-style-type: none"> ・幹事に鈴木秀悦、千葉忠範先生 ・胆江地区の現役のことばの教室担当者も参加 ・胆沢平野の水利事業、ダムを見学(参加者25名・親の会会長臼澤弘泰氏参加)
4	14	7	30	華鬘草第1集 発刊		P41	<ul style="list-style-type: none"> ・執筆者20名 華鬘草(ケマンソウ)は、ケシ科の多年草、別名フジボタン、タイツリ草。4~5月に釣竿状にまがった茎頂に優しい桃色の花が10~15輪、一列に釣り下がるように咲く。この花の姿を見ると、難言教育に携わったえにしを大切に、今もってつながりを保っている私たちの会を象徴しているように思い、文集の誌名にした。
5		7	30	第4回	雫石町	鶯宿温泉・南部富士見ハイツ	<ul style="list-style-type: none"> ・幹事に若松三郎、門脇次郎先生、(参加者33名・県難言研会長吉丸容子先生及び事務局の先生方、県親の会会長臼澤弘泰、主濱友子氏及び副会長等参加)
6	15	11	1	華鬘草第2集 発刊		P37	<ul style="list-style-type: none"> ・執筆者18名
7	16	8	28	第5回	宮古市	白浜 海幸園	<ul style="list-style-type: none"> ・幹事に田崎豊義、牧原登先生、(参加者26名 県難言研千葉茂会長、小山田静子事務局長も参加・船で本州最東土端のとどヶ崎灯台へ 千葉会長さんのビデオ編集に感嘆する)
8	18	9	15	華鬘草第3集 発刊		P61	<ul style="list-style-type: none"> ・執筆者25名 ・故小山田静子先生(県難言研事務局長)の文と先生への追悼文掲載
9		9	15	第6回	雫石町	鶯宿温泉・南部富士見ハイツ	<ul style="list-style-type: none"> ・幹事 事務局担当 (参加者31名・県難言研会長新沼敏哉先生及び事務局長梅野展和先生はじめ事務局の先生方、県親の会会長臼澤、主濱氏及び副会長等参加)
10	19~20年			<ul style="list-style-type: none"> ・第29回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会岩手大会の成功へ向けて、大会支援賛助金募金活動展開、語る会会員等から100万円を超える賛助金が集まる。 ・全難言岩手大会及び岩手県難言研究会及び県難言研地区研究会(9地区)へ研究活動費として寄贈。 ・やまびこ会(岩手県難聴者の会)に活動補助金として寄贈。 			

11	20	5	16	第7回	雫石町	鶯宿温泉・南部富士見ハイツ	・幹事 事務局担当（参加者30名 ・県難言研副会長森田巧先生及び梅野事務局長はじめ事務局の先生方、県親の会前会長臼澤、現会長佐々木信孝、主濱氏及び副会長、参与等参加）
12		7月31日～8月1日			・第29回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会岩手大会に語る会会員も実行委員会及び大会分科会役員として参加		
13	22	9	3	華鬘草第4集 発刊	P48	執筆者24名	
14		9	3	第8回	花巻市	金矢温泉・ホテル銀河パークはなまき	・幹事 事務局担当（参加者29名 ・故成田廣邦親の会会長13回忌墓参法要 ・県難言研陳ヶ岡会長、事務局長堺秋子先生はじめ事務局の先生方、前全国親の会会長土谷さとる氏、親の会前会長臼澤、佐々木会長、主濱事務局長等）
15		10	26	華鬘草第5集 発刊	P48	執筆者24名	
16	24	10	26	第9回	花巻市	台温泉・中嶋旅館	・幹事 事務局担当（参加者30名 ・県難言研副会長森田巧先生、はじめ事務局の先生方、教育センターの五安城正敏、森和佳子研修指導主事、親の会佐々木会長、主濱事務局長、副会長等）
17	26	5	30	第10回	雫石町	鶯宿温泉・赤い風船	・幹事 事務局担当（参加者25名 ・県難言研副会長森田巧先生、牟岐茂里雄事務局長はじめ事務局の先生方、盛岡市教委の五安城正敏指導主事、教育センターの森和佳子主任研修指導主事、親の会佐々木会長、主濱事務局長、副会長等） ・時代、社会の要請に沿って、本年度から会則を改正し、岩手のことばにニーズをもつ子どもとその親たちを支援する幅広い活動にすべく、会員の資格を教室担任OBだけではなく、広く現役の永年担任者や親の会役員にも広げた。